

## I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

1. 医薬品の本質に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであり、高い水準で均一な品質が保証されているので、市販後に承認基準が見直されることはない。
- b 検査薬は、人体に対して使用されない医薬品であるため、検査結果について正しい解釈や判断がなされなくても、人の健康に影響を与えることはない。
- c 医薬品は、期待される有益な効果（薬効）のみをもたらすとは限らず、好ましくない反応（副作用）を生じる場合もある。
- d 一般用医薬品は、一般の生活者が自ら選択し、使用するものである。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

2. 食品に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 生薬成分等については、医薬品的な効能効果が標榜又は暗示されていなければ、食品（ハーブ等）として流通可能なものもあり、そうした食品を合わせて摂取すると、生薬成分が配合された医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。
- b 機能性表示食品は、疾病に罹患していない者の健康の維持及び増進に役立つ旨又は適する旨を表示するものである。
- c 特定保健用食品は、「特定の保健機能の表示」を行うことができる。
- d 医薬品を扱う者は、いわゆる健康食品は医薬品と異なるものであることを認識し、消費者に指導・説明を行わなくてはならない。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |

3. 小児等が医薬品を使用する場合に留意すべきことに関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 医薬品の使用上の注意において、小児という場合は、おおよその目安として15歳以下の年齢区分が用いられている。
- b 一般的に、5歳未満の幼児に使用される錠剤やカプセル剤では、服用時に喉につかえやすいので注意するよう添付文書に記載されている。
- c 乳児向けの用法用量が設定されている一般用医薬品であっても、乳児は医薬品の影響を受けやすいため、一般用医薬品による対処よりも、基本的には医師の診療を受けることが優先される。
- d 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が相対的に低い。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

4. 医薬品のリスク評価に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 胎児毒性が生じるのは、多量投与の場合のみである。
- b 単回投与であっても、治療量を超えた量を投与した場合、毒性が発現するおそれがある。
- c 医薬品の効果とリスクは、薬物曝露時間と曝露量との積で表現される用量-反応関係に基づいて評価される。
- d 少量の投与であれば、長期投与されても慢性的な毒性は発現しない。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |

5. プラセボ効果に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待や、条件付けによる生体反応、時間経過による自然発生的な変化等が関与して生じると考えられている。
- b 医薬品を使用したときに、もたらされる反応や変化は、薬理作用によるもののほか、プラセボ効果によるものも含まれる。
- c プラセボ効果によってもたらされる反応や変化は、望ましい効果のみである。
- d プラセボ効果は、客観的に測定可能な変化として確実に現れる。

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

6. 医薬品の副作用に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一般用医薬品の使用にあたっては、疾病に伴う症状の改善を優先し、副作用の兆候が現れても使用を継続することとされている。
- b 医薬品の添加物は、アレルゲン（アレルギーを引き起こす原因物質）となることはない。
- c 医薬品の中には、牛乳を原材料として作られているものがあるため、それに対するアレルギーがある人は、使用を避けなければならない場合がある。

|   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 誤 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 |

7. 高齢者に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が強くなりやすく、若年時と比べて副作用を生じるリスクが高くなる。
- b 医薬品の飲み忘れを起こしやすい傾向があり、家族の理解や協力も含めた配慮が重要となることがある。
- c 持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の治療の妨げとなる場合がある。
- d 医薬品の副作用で口渇を生じることがあり、誤嚥を誘発しやすくなるので注意が必要である。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 正 | 誤 | 正 |

8. アレルギーに関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a アレルギーは、強い薬理作用を持つ医薬品成分によって、特に起こりやすい傾向がある。
- b 病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合には、普段は医薬品にアレルギーを起こしたことの無い人でも、医薬品がアレルゲンになることがあり、思わぬアレルギーを生じることがある。
- c アレルギーには体質的・遺伝的な要素もあり、アレルギーを起こしやすい体質の人や、近い親族にアレルギー体質の人がいる場合には、注意が必要である。
- d アレルギー症状とは、免疫機構が過敏に反応することにより、体の各部位に生じる炎症をいう。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 正 | 誤 | 正 |

9. 次の記述は、サリドマイドに関するものである。( ) にあてはまる字句として、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

サリドマイドは妊娠している女性が摂取した場合、( a ) を通過して胎児に移行する。

サリドマイド訴訟は、( b ) 等として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に、四肢欠損、耳の障害等の先天異常(サリドマイド胎芽症)が発生したことに対する損害賠償訴訟である。

サリドマイドによる薬害事件は、我が国のみならず世界的にも問題となったため、世界保健機関(WHO)加盟国を中心に( c )の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

|   | a       | b     | c   |
|---|---------|-------|-----|
| 1 | 血液脳関門   | 解熱鎮痛剤 | 市販前 |
| 2 | 血液-胎盤関門 | 解熱鎮痛剤 | 市販後 |
| 3 | 血液-胎盤関門 | 催眠鎮静剤 | 市販前 |
| 4 | 血液-胎盤関門 | 催眠鎮静剤 | 市販後 |
| 5 | 血液脳関門   | 解熱鎮痛剤 | 市販後 |

10. スモン及びスモン訴訟に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a スモン訴訟とは、キノホルム製剤を使用した人が、慢性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟のことである。
- b スモン訴訟は、医薬品副作用被害救済制度創設にあたっての契機の一つとなった。
- c スモン患者に対しては、施術費及び医療費の自己負担分の公費負担や、重症患者に対する介護事業等が講じられている。
- d スモンの症状は、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 正 | 誤 | 正 |

11. C J D (クロイツフェルト・ヤコブ病) 及びC J D訴訟に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a C J Dは、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。
- b C J Dは、細菌の一種であるプリオンが原因とされている。
- c C J D訴訟は、脳外科手術等に用いられたヒト乾燥硬膜を介してC J Dに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- d C J D訴訟は、生物由来製品による感染等被害救済制度の創設にあたっての契機の一つとなった。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |

12. H I V訴訟に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a H I V訴訟は、血友病患者が、H I V (ヒト免疫不全ウイルス) が混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、H I Vに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- b H I V訴訟は、国及び製薬企業を被告として提訴された。
- c H I V訴訟の和解を踏まえ、国は、H I V感染者に対する恒久対策として、エイズ治療研究開発センター及び拠点病院の整備や治療薬の早期提供等の様々な取り組みを推進してきている。
- d H I V訴訟を契機に、血液製剤の安全確保対策として、検査や献血時の問診の充実が図られた。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

13. 一般用医薬品の販売等に従事する専門家が購入者から確認しておきたい基本的なポイントに関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a その医薬品を使用するのは情報提供を受けている当人か、又はその家族等が想定されるか。
- b その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
- c その医薬品を使用する人として、小児や高齢者、妊婦等が想定されるか。
- d その医薬品を使用する人が過去にアレルギーや医薬品による副作用等の経験があるか。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

14. 次の記述は、セルフメディケーションに関するものである。( ) にあてはまる字句として、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

( a ) の定義によれば、「自分自身の ( b ) に責任を持ち、軽度な身体の不調は ( c ) する」ことをセルフメディケーションという。

|   | a                 | b  | c          |
|---|-------------------|----|------------|
| 1 | 世界保健機関 (WHO)      | 治療 | 医師又は薬剤師に相談 |
| 2 | 世界保健機関 (WHO)      | 健康 | 自分で手当て     |
| 3 | 厚生労働省             | 健康 | 医師又は薬剤師に相談 |
| 4 | 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 | 治療 | 自分で手当て     |
| 5 | 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 | 健康 | 医師又は薬剤師に相談 |

15. 次の記述は、医薬品の使用上の注意に関するものである。( ) にあてはまる字句として、**正しいもの**を1つ選びなさい。

医薬品の使用上の注意において、幼児という場合は、おおよその目安として、( ) 未満を指すものとされている。

- 1 5歳      2 6歳      3 7歳      4 8歳      5 9歳

16. 適切な医薬品選択と受診勧奨に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一般用医薬品で対処可能な範囲は、乳幼児や妊婦等では、通常の成人の場合に比べ、その範囲は限られてくる。
- b 症状が重いときに、一般用医薬品を使用することは、一般用医薬品の役割に鑑みて適切な対処とはいえない。
- c 一般用医薬品の販売等に従事する専門家による情報提供は、必ずしも医薬品の販売に結びつけるものではない。
- d 一般用医薬品を一定期間若しくは一定回数使用しても症状の改善がみられない又は悪化した者は、医療機関を受診して医師の診療を受ける必要がある。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 | 正 |

17. 一般用医薬品の役割として、**誤っているもの**を1つ選びなさい。

- 1 生活の質（QOL）の改善・向上
- 2 健康の維持・増進
- 3 健康状態の自己検査
- 4 生活習慣病の治療（科学的・合理的に効果が期待できるものに限る。）



18. 妊婦若しくは妊娠していると思われる女性又は母乳を与える女性（授乳婦）の医薬品の使用に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 胎盤には、胎児の血液と母体の血液が混ざり合う仕組みがある。
- b 一般用医薬品においては、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価は容易であるため、妊婦の使用については「相談すること」としているものが多い。
- c ビタミンA含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。
- d 医薬品の種類によっては、授乳婦が使用した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られており、母乳を介して乳児が医薬品の成分を摂取することになる場合がある。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 4 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |

19. 医薬品の相互作用に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ医薬品が使用される場合が多く、医薬品同士の相互作用に関して特に注意が必要となる。
- b 一般用医薬品は、一つの医薬品の中に作用の異なる複数の成分を組み合わせで含んでいることが多く、他の医薬品と併用した場合に、同様な作用を持つ成分が重複することがあり、作用が強くなり出過ぎたり、副作用を招く危険性が増すことがある。
- c 相互作用を回避するには、ある医薬品を使用している期間やその前後を通じて、その医薬品との相互作用を生じるおそれのある医薬品や食品の摂取を控えなければならないのが通常である。
- d 相互作用は、医薬品が吸収、代謝、分布又は排泄される過程で起こり、医薬品が薬理作用をもたらす部位では起こらない。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 正 | 正 | 正 |

20. 一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 医薬品の販売に従事する専門家においては、購入者等が、自分自身や家族の健康に対する責任感を持ち、適切な医薬品を選択して、適正に使用するよう、働きかけていくことが重要である。
- b 医薬品の販売に従事する専門家からの情報提供は、説明した内容が購入者等にどう理解され、行動に反映されているかなどの実情を把握しながら行うことにより、その実効性が高まる。
- c 購入者等が医薬品を使用する状況は随時変化する可能性があるため、販売数量は一時期に使用する必要量とする等、販売時のコミュニケーションの機会が継続的に確保されることが重要である。
- d 購入者側は、あらかじめ購入する医薬品を決めていることも多いが、使う人の体質や症状等にあった製品を事前に調べて選択しているのではなく、宣伝広告や販売価格等に基づいて漠然と選択していることも少なくない。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 4 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |

## II 人体の働きと医薬品

21. 小腸に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 小腸のうち、十二指腸に続く部分の概ね上部20%が空腸、残り約80%が回腸である。
- b 十二指腸には、膵臓からの膵管と胆嚢からの胆管の開口部があって、それぞれ膵液と胆汁を腸管内へ送り込んでいる。
- c 十二指腸の上部を除く小腸の内壁には輪状のひだがあり、その粘膜表面は絨毛に覆われている。
- d 空腸で分泌される腸液（粘液）に、腸管粘膜上の消化酵素が加わり、消化液として働く。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

22. 呼吸器系に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 呼吸器は常時外気と接触する器官であり、様々な異物、病原物質の侵入経路となるため、幾つもの防御機構が備わっている。
- b 鼻汁にはコルチゾンが含まれ、気道の防御機構の一つとなっている。
- c 肺自体には肺を動かす筋組織がないため、自力で膨らんだり縮んだりするのではなく、横隔膜や肋間筋によって拡張・収縮して呼吸運動を行う。
- d 鼻腔から気管支までの呼気及び吸気の通り道を気道といい、そのうち、気管から気管支、肺までの部分を上気道という。

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

23. リンパ系に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a リンパ管には逆流防止のための弁があり、リンパ液は一定の方向に流れている。
- b リンパ液の流れは、主に食後の胃の運動によるものである。
- c リンパ系には、心臓のようにポンプの働きをする器官はない。
- d リンパ節の内部には血小板が密集しており、血栓が形成されやすい。

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

24. 骨と関節に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 骨組織は、炭酸カルシウムやリン酸カルシウム等の無機質からなり、タンパク質等の有機質は存在しない。
- b 骨は生きた組織であるが、成長が停止した後は骨の新陳代謝は行われない。
- c 赤血球や白血球、血小板は、骨髄に存在する造血幹細胞から分化することにより、体内に供給される。
- d 骨の基本構造は、主部となる骨質、骨質表面を覆う骨膜、骨質内部の骨髄、骨の接合部にある関節軟骨の四組織からなる。

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

25. 末梢神経系に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 交感神経系と副交感神経系は、一方が活発になっているときには他方は活動を抑制して、効果器を制御している。
- b 自律神経系は、交感神経系と副交感神経系からなる。
- c 交感神経の節後線維の末端から放出される神経伝達物質は、汗腺を支配する交感神経を除き、ドパミンである。
- d 副交感神経の節後線維の末端から放出される神経伝達物質は、 $\gamma$ -アミノ酪酸である。

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

26. 目に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 結膜の充血では、白目の部分のみ赤くなる。
- b 遠近の焦点調節は、主に硝子体の厚みを変化させることによって行われる。
- c 視細胞には、色を識別する細胞と、わずかな光でも敏感に反応する細胞の二種類がある。
- d 眼瞼は、皮下組織が少なく薄くできているため、内出血や裂傷を生じやすい。

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

27. 肝臓に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 肝臓に蓄えられたグリコーゲンは、血糖値が下がったときなど、必要に応じてブドウ糖に分解されて血液中に放出される。
- b 肝臓では、必須アミノ酸以外のアミノ酸を生合成することができる。
- c 肝臓は、脂溶性ビタミンであるビタミンA、D等を貯蔵することはできるが、ビタミンB<sub>6</sub>やビタミンB<sub>12</sub>等の水溶性ビタミンは貯蔵することができない。
- d アルコールは、胃や小腸で吸収されるが、肝臓へと運ばれて、一度酢酸に代謝されたのち、さらに代謝されてアセトアルデヒドになる。

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

28. 耳に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 内耳は、聴覚器官である前庭と、平衡器官である蝸牛の2つの部分からなる。
- b 耳垢は、内耳にある耳垢腺や皮脂腺からの分泌物に、埃や内耳上皮の老廃物などが混じったものである。
- c 耳は、聴覚情報と平衡感覚を感知する器官で、外耳、中耳、内耳からなる。
- d 小さな子供は、耳管が太く短くて、走行が水平に近いいため、鼻腔からウイルスや細菌が侵入し感染が起こりやすい。

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

29. 大腸に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 大腸は、盲腸、虫垂、上行結腸、横行結腸、下行結腸、S状結腸、直腸からなる管状の臓器で、内壁粘膜に絨毛がある。
- b 通常、糞便の成分の大半は食物の残滓で、そのほか、はがれ落ちた腸壁上皮細胞の残骸（15～20%）や腸内細菌の死骸（10～15%）が含まれ、水分は約5%に過ぎない。
- c 大腸内には腸内細菌が多く存在し、腸管内の食物繊維（難消化性多糖類）を発酵分解する。
- d 大腸では消化はほとんど行われない。

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

30. 医薬品の吸収、代謝、排泄に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 鼻腔の粘膜に医薬品を適用する場合、その成分は循環血液中に移行しないため、一般用医薬品には全身作用を目的とした点鼻薬はない。
- b 医薬品の有効成分が代謝を受けると、作用を失ったり、作用が現れたり、あるいは体外へ排泄されやすい脂溶性の物質に変化する。
- c 有効成分が皮膚から浸透して体内の組織で作用する医薬品の場合、浸透する量は皮膚の状態、傷の有無やその程度などによって影響を受ける。
- d 医薬品の有効成分の母乳中への移行は、体内からの消失経路としての意義は小さいが、乳児に対する副作用の発現という点で、軽視することはできない。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

31. 医薬品が働く仕組みに関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 内服薬は、全身作用を示すものが多いが、膨潤性下剤のように、有効成分が消化管内で作用するものもあり、その場合に現れる作用は局所作用である。
- b 口腔粘膜から吸収された医薬品の成分は、初めに肝臓で代謝を受けてから全身に分布する。
- c 局所作用を目的とする医薬品の場合、全身性の副作用が生じることはない。

|   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 |

32. ショック（アナフィラキシー）に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 発症後の進行が非常に速やかな（通常、2時間以内に急変する。）ことが特徴である。
- b 一旦発症すると、病態は急激に悪化することが多く、適切な対応が遅れるとチアノーゼや呼吸困難等を生じ、致命的な転帰をたどることがある。
- c 発症後、直ちに救急救命処置が可能な医療機関を受診する必要がある。
- d 医薬品によるショックは、以前にその医薬品によって蕁麻疹等のアレルギーを起こしたことがある人では起きる可能性が低い。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

33. 医薬品の副作用として現れる肝機能障害に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 原因と考えられる医薬品を漫然と使用し続けると、不可逆的な病変（肝不全）を生じ、死に至ることがある。
- b 肝機能障害が疑われた時点で、原因と考えられる医薬品の使用を中止し、医師の診療を受けることが重要である。
- c 黄疸とは、コレステロールが胆汁中へ排出されずに血液中に滞留することにより生じる、皮膚や白眼が黄色くなる病態である。
- d アレルギー性の肝機能障害は、有効成分又はその代謝物の直接的肝毒性が原因で起きる。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

34. 医薬品の副作用として現れる偽アルドステロン症に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 特に乳児で生じやすい。
- b 副腎皮質からアルドステロン分泌が増加することにより生じる。
- c 手足の脱力、血圧上昇、筋肉痛、喉の渇き等が主な症状となる。
- d 医薬品と食品との相互作用により起きることはない。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |



35. 血漿成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a アルブミンは、血液の浸透圧を保持する（血漿成分が血管から組織中に漏れ出るのを防ぐ）働きがある。
- b 脂質は、血漿中のタンパク質と結合してリポタンパク質を形成し、血漿中に分散している。
- c グロブリンは、ホルモンや医薬品の成分等と複合体を形成して、それらが血液によって運ばれるときに代謝や排泄を受けにくくする。
- d アルブミンは、その多くが、免疫反応において、体内に侵入した細菌やウイルス等の異物を特異的に認識する抗体としての役割を担う。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 5 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |

36. 医薬品が働く仕組みに関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一度に大量の医薬品を摂取して血中濃度を高くしても、ある濃度以上になるとより強い薬効は現れなくなる。
- b 医薬品の有効成分の代謝・排泄の速度が、吸収・分布の速度を上回ると、医薬品の有効成分の血中濃度は上昇する。
- c 循環血液中に移行した有効成分は、血流によって全身の組織・器官へ運ばれて作用するが、多くの場合、標的となる細胞に存在する受容体、酵素、トランスポーターなどのタンパク質と結合し、その機能を変化させることで薬効や副作用を現す。
- d 医薬品が摂取され、その有効成分が循環血液中に移行すれば、その血中濃度に関わらず生体の反応としての薬効が現れる。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 誤 |

37. 医薬品の副作用として現れる排尿困難や尿閉に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 前立腺肥大の基礎疾患がある人のみに現れる。
- b 初期段階で適切な対応が図られるよう、尿勢の低下等の兆候に留意することが重要である。
- c 副交感神経系の機能を亢進する作用がある成分が配合された医薬品を使用すると、膀胱の排尿筋の収縮が抑制され、尿が出にくい、尿が少ししか出ない、残尿感がある等の症状を生じることがある。
- d 多くの場合、原因となる医薬品の使用を中止することにより症状は速やかに改善するが、医療機関における処置を必要とする場合もある。

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

38. 消化器系に現れる医薬品の副作用に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 消化性潰瘍になると、消化管出血に伴って糞便が黒くなるなどの症状が現れる。
- b イレウス様症状が悪化すると、腸内容物の逆流による嘔吐が原因で脱水症状を呈することがある。
- c イレウス様症状は、普段から便秘傾向のある人において発症リスクが高い。
- d 浣腸剤や坐剤の使用によって現れる一過性の症状に、肛門部の熱感等の刺激、排便直後の立ちくらみなどがある。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |

39. 医薬品の副作用として現れる喘息に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一般的に、原因となる医薬品の使用から1～2週間程度で起きることが多い。
- b 医薬品で喘息発作を起こしたことがある人は、同種の医薬品の使用を避ける必要がある。
- c 成人になってから喘息を発症した人で発症しやすい。
- d 合併症を起こさない限り、原因となった医薬品の有効成分が体内から消失すれば症状は寛解する。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

40. 医薬品の副作用に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 接触皮膚炎は、医薬品の触れた部位だけでなく全身に広がって重症化する可能性がある。
- b 循環器系に現れる副作用としての不整脈では、代謝機能の低下によって、発症リスクが低下する。
- c 薬疹は、医薬品ごとに生じる発疹の型が決まっている。
- d 間質性肺炎では、症状が一過性に現れ、自然と回復することもあるが、悪化すると肺線維症（肺が線維化を起こして硬くなる状態）に移行することがある。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

### Ⅲ 薬事に関する法規と制度

41. 日本薬局方に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 日本薬局方に収められている物は、医薬品として扱われる。
- b 日本薬局方は、厚生労働大臣が薬事・食品衛生審議会の意見を聴いて定める。
- c 日本薬局方では、収められている物に係る規格・基準及び標準的試験法等が定められている。
- d 日本薬局方に収められている物の中には、一般用医薬品として販売されているものや一般用医薬品の中に配合されているものがある。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 | 正 |

42. 医薬品等の取り扱いに関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 疾病の診断に使用することを目的とするものは、機械器具を含めてすべて医薬品として扱われる。
- b 殺虫剤は、すべて医薬部外品として扱われる。
- c 身体に直接使用されない器具用消毒薬は、すべて医薬部外品として扱われる。
- d 「やせ薬」を標榜した食品は、無承認無許可医薬品として扱われる。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

43. 医薬品医療機器等法第56条で販売等が禁止されている医薬品として、**誤っているもの**を1つ選びなさい。

- 1 医薬品医療機器等法第14条の承認を受けた医薬品であって、その成分若しくは分量又は性状、品質若しくは性能がその承認の内容と異なるもの
- 2 その全部又は一部が不潔な物質又は変質若しくは変敗した物質から成っている医薬品
- 3 異物が混入し、又は付着している医薬品
- 4 効能及び効果が容器に表示されていないもの

44. 要指導医薬品に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一般用医薬品である。
- b 毒薬は該当するが、劇薬は該当しない。
- c 適正な使用のために、薬剤師の対面による情報の提供及び薬学的知見に基づく指導が行われることが必要である。
- d 厚生労働大臣が、薬事・食品衛生審議会の意見を聴いて指定する。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

45. 医薬品の販売に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 卸売販売業は、一般の生活者に対して医薬品を販売することができる。
- b 店舗販売業及び卸売販売業は、特定の購入者の求めに応じて医薬品の包装を開封して分割販売することができる。
- c 店舗販売業は、要指導医薬品の販売は認められていない。

- |   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 誤 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 |

46. 一般用医薬品のリスク区分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 副作用等により日常生活に支障を来す程度の健康被害が生ずるおそれがある医薬品のうち、その使用に関し特に注意が必要なものは、第一類医薬品として指定される。
- b 購入者がそのリスクの程度について判別しやすいよう、各製品の外箱等に、当該医薬品が分類されたリスク区分ごとに定められた事項を記載することが義務づけられている。
- c 新たに一般用医薬品となった医薬品は、承認後の一定期間、指定第二類医薬品として扱われる。
- d 第一類医薬品、第二類医薬品又は第三類医薬品への分類については、安全性に関する新たな知見や副作用の発生状況等を踏まえ、適宜見直しが図られる。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |

47. 添付文書等への記載事項に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 用法用量が記載されていなければならない。
- b 使用及び取扱い上必要な注意等が記載されていなければならない。
- c 邦文で記載されていなければならない。
- d 製造年月日が記載されていなければならない。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

48. 保健機能食品等の食品に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 特定保健用食品の中には「条件付き特定保健用食品」という区分がある。
- b 栄養機能食品は、その食品に含まれる栄養成分の機能表示を行うため、消費者庁長官の個別審査を受ける必要がある。
- c 機能性表示食品は、事業者の責任において、科学的根拠に基づいた機能性を表示し、販売前に安全性及び機能性の根拠に関する情報などが消費者庁長官へ届け出られたものである。

|   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 |

49. 毒薬及び劇薬に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 単に毒性、劇性が強いものだけでなく、薬効が期待される摂取量（薬用量）と中毒のおそれがある摂取量（中毒量）が接近しており安全域が狭いため、その取扱いに注意を要するもの等が指定される。
- b 毒薬を貯蔵、陳列する場所については、かぎを施さなければならない。
- c 毒薬を収める直接の容器又は被包に、赤地に白枠、白字をもって、当該医薬品の品名及び「毒」の文字が記載されていなければならない。

|   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 |

50. 薬局における医薬品販売に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 薬局では、医薬品の調剤と併せて、店舗により医薬品の販売を行うことが認められている。
- b 薬局で第二类医薬品又は第三類医薬品を販売する場合、登録販売者が購入者への情報提供や相談対応を行うことができる。
- c 薬局開設者が薬剤師でない場合は、その薬局で薬事に関する実務に従事する薬剤師のうちから管理者を指定して実地に管理させる必要がある。

|   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 |

51. 店舗管理者に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 薬剤師は、店舗管理者になることができる。
- b 店舗管理者は、その店舗全体を管理していれば、医薬品の販売又は授与に従事していなくてもよい。
- c 店舗管理者は、保健衛生上支障を生ずるおそれがないよう、店舗販売業者に対して必要な意見を述べなければならない。

|   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 |



52. 次のうち、薬局開設者が特定販売で取り扱うことができる医薬品として、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 薬局製造販売医薬品（毒薬及び劇薬であるものを除く。）
- b 要指導医薬品
- c 第一類医薬品
- d 医療用医薬品

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

53. 次のうち、要指導医薬品を販売する際に医薬品医療機器等法施行規則第158条の1第4項に規定するあらかじめ確認しなければならない事項として、**誤っているもの**を1つ選びなさい。

- 1 当該要指導医薬品に係る購入、譲受け又は使用の経験の有無
- 2 他の薬剤又は医薬品の使用の状況
- 3 現にかかっている医療機関がある場合は、その医療機関名
- 4 妊娠しているか否かの別及び妊娠中である場合は妊娠週数
- 5 性別

54. 医薬品の陳列方法に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 店舗販売業者が第一類医薬品を販売するときには、薬局等構造設備規則に規定する「情報提供を行うための設備」から7メートル以内の範囲に陳列しなければならない。
- b 店舗販売業者は、開店時間のうち、要指導医薬品又は一般用医薬品を販売し、又は授与しない時間は、要指導医薬品又は一般用医薬品を通常陳列し、又は交付する場所を閉鎖しなければならない。
- c 薬局開設者が要指導医薬品を陳列するときは、必ず鍵をかけた陳列設備に陳列しなければならない。

|   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 |

55. 次のうち、薬局又は店舗の見やすい位置に掲示板で掲示しなければならない事項として、**誤っているもの**を1つ選びなさい。

- 1 薬局開設者又は店舗販売業者の氏名又は名称、許可証の記載事項
- 2 薬局、店舗の管理者の氏名
- 3 取り扱う要指導医薬品の品名
- 4 薬局、店舗に勤務する者の名札等による区別に関する説明

56. 医薬品の販売広告に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 医師その他の者がこれを保証したものと誤解されるおそれがある記事を広告し、記述し、又は流布することは、誇大広告等に該当する。
- b 未承認の医薬品の名称、製造方法、効能、効果又は性能に関する広告は、禁止されている。
- c 医薬品の販売広告に関する医薬品医療機器等法第66条及び第68条の規定は、その広告等の依頼主だけでなく、その広告等に関与するすべての人が対象となる。
- d 過度の消費や乱用が助長されることのないよう、節度ある適切な内容や表現が求められる。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 正 | 正 | 正 |

57. 配置販売業に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 配置販売業の許可を受けようとする者は、医薬品を配置しようとする区域にかかわらず、申請者の住所地（法人にあっては、主たる事務所の所在地）の都道府県知事に申請書を提出しなければならない。
- b 薬剤師が配置販売に従事していない場合には、第一類医薬品の販売又は授与を行うことができない。
- c 薬局開設者又は店舗販売業者が、配置による販売又は授与の方法で医薬品を販売等しようとする場合には、別途、配置販売業の許可を受ける必要はない。
- d 配置販売業者は、その区域の業務につき、区域管理者が保健衛生上支障が生じるおそれがないように述べた意見を、尊重しなければならない。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |

58. 次のうち、医薬品医療機器等法第50条に基づき医薬品の直接の容器又は被包に記載されていなければならない事項として、**誤っているもの**を1つ選びなさい。

- 1 製造業者の氏名又は名称及び住所
- 2 製造番号又は製造記号
- 3 重量、容量又は個数等の内容量
- 4 指定第二類医薬品にあっては、枠の中に「2」の数字

59. 化粧品に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 薬用化粧品は、医薬部外品である。
- b 化粧品の成分本質（原材料）には、原則として医薬品の成分を配合してはならない。
- c 化粧品を業として製造販売するには、製造販売業の届出を行う必要がある。
- d 化粧品を業として販売するには、販売業の届出を行う必要がある。

|         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| 1 (a、b) | 2 (a、c) | 3 (b、d) | 4 (c、d) |
|---------|---------|---------|---------|

60. 医薬品医療機器等法に基づく行政庁の監視指導及び処分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 都道府県知事（その薬局の所在地が保健所を設置する市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。以下、都道府県知事等という。）は、薬事監視員に、薬局に立ち入りさせ、帳簿書類を収去させることができる。
- b 都道府県知事等は、店舗販売業の一般用医薬品の販売等を行うための業務体制が基準に適合しない場合、店舗管理者に対して、その業務体制の整備を命ずることができる。
- c 厚生労働大臣は、医薬品による保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、薬局開設者に対して医薬品の販売の一時停止を命ずることができる。
- d 都道府県知事は、配置販売業者に対して、その構造設備が基準に適合しない場合、その構造設備の改善を命ずることができる。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |

## IV 主な医薬品とその作用

61. 次のかぜ薬の配合成分とその配合目的の組み合わせについて、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

| <配合成分>              | <配合目的>                   |
|---------------------|--------------------------|
| a クレマスチンフマル酸塩       | — くしゃみ、鼻汁を抑える            |
| b デキストロメトルフアン臭化水素酸塩 | — 咳を抑える                  |
| c アセトアミノフェン         | — 鼻粘膜の充血を和らげ、気管・気管支を拡張する |
| d プソイドエフェドリン塩酸塩     | — 痰の切れを良くする              |

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

62. 次の漢方処方製剤のうち、かぜの症状の緩和に用いられ、構成生薬としてカンゾウ及びビマオウを含むものとして、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 柴胡桂枝湯
- b 小柴胡湯
- c 小青竜湯
- d 葛根湯

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

63. 次の解熱鎮痛薬の配合成分のうち、一般用医薬品において、15歳未満の小児に対して、いかなる場合も使用してはならないものとして、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a アセトアミノフェン
- b イブプロフェン
- c イソプロピルアンチピリン
- d アスピリン

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

64. 解熱鎮痛薬に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 解熱鎮痛薬は、発熱や痛みの原因となっている病気や外傷自体を治すものでなく、発熱や痛みを緩和するために使用される。
- b 解熱鎮痛薬による末梢でのプロスタグランジンの産生抑制は、循環血流量を減少させ、心臓に障害のある患者にとって症状の改善に役立つ。
- c 解熱鎮痛薬による末梢でのプロスタグランジンの産生抑制は、腎臓での血流量の増加につながるため、腎機能の改善に役立つ。

|   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 |

65. 眠気を促す薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、睡眠改善薬として、慢性的な睡眠障害の緩和に用いられる。
- b 小児及び若年者では、抗ヒスタミン成分により、眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などが現れることがある。
- c ブロモバレリル尿素は、反復して摂取すると依存を生じることがある。

|   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 |

66. 次の記述は、一般用医薬品におけるカフェインに関するものである。( ) にあてはまる字句として、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量は、カフェインとして( a )、1日摂取量はカフェインとして( b )が上限とされている。

|   | a     | b       |
|---|-------|---------|
| 1 | 100mg | 200mg   |
| 2 | 100mg | 500mg   |
| 3 | 200mg | 500mg   |
| 4 | 200mg | 800mg   |
| 5 | 500mg | 1,000mg |

67. 鎮暈薬(乗物酔い防止薬)の配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経(前庭神経)の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- b アミノ安息香酸エチルは、延髄にある嘔吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。
- c ジプロフィリンは、脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させる作用を示す。
- d ジメンヒドリナートは、胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐きけを抑える作用を示す。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

68. 小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）及びその配合成分（生薬成分）に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a ユウタンは、ウシ科のサイカレイヨウ（高鼻レイヨウ）等の角を基原とする生薬で、緊張や興奮を鎮める作用を期待して用いられる。
- b 小児の疳を適応症とする主な漢方処方製剤としては、柴胡加竜骨牡蛎湯、桂枝加竜骨牡蛎湯、抑肝散、抑肝散加陳皮半夏のほか、小建中湯がある。
- c 夜泣き、ひきつけ、疳の虫等の症状は、発達段階の一時的な症状と保護者が達観することも重要であり、小児鎮静薬を保護者側の安眠等を図ることを優先して使用することは適当でない。
- d 小児鎮静薬は、症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 正 | 正 | 正 |

69. 次の記述は、鎮咳去痰薬の配合成分（生薬成分）に関するものである。該当する成分として、**正しいもの**を1つ選びなさい。

この成分の摂取により糖尿病の検査値に影響を生じることがあり、糖尿病が改善したと誤認されるおそれがある。このため、1日最大配合量が原生薬として1.2g以上を含有する製品では、その添付文書等において、本剤の服用により、糖尿病の検査値に影響を及ぼすことがある旨が成分及び分量に関連する注意として記載されている。

- 1 セネガ
- 2 キキョウ
- 3 シャゼンソウ
- 4 ナンテンジツ
- 5 キョウニン



70. 口腔咽喉薬・含嗽薬及びその配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a クロルヘキシジングルコン酸塩は、喉の粘膜を刺激から保護する成分として用いられる。
- b トラネキサム酸は、口腔内や喉に付着した細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑えることを目的として用いられる。
- c アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）は、炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して配合される。
- d ポビドンヨードが配合された含嗽薬では、その使用によって銀を含有する歯科材料（義歯等）が変色することがある。

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

71. 胃腸に作用する医薬品の配合成分とその配合目的の組み合わせについて、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- | ＜配合成分＞          | ＜配合目的＞                 |
|-----------------|------------------------|
| a ピレンゼピン塩酸塩     | — 胃液の分泌を抑制する           |
| b グリチルリチン酸二カリウム | — 胃粘膜の炎症を和らげる          |
| c オウバク          | — 胃酸の働きを弱める            |
| d スクラルファート      | — 消化管内容物中に発生した気泡の分離を促す |

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

72. 次の記述のうち、センノシドの主な薬理作用の説明として、**最も適切なもの**を1つ選びなさい。

- 1 消化管の平滑筋に直接作用して、消化管運動を調整する作用があるとされる。
- 2 腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分量を増し、また、大腸を刺激して排便を促す。
- 3 結腸での水分の吸収を抑えて、糞便のかさを増大させる働きがあるとされる。
- 4 胃や小腸で消化されないが、大腸に生息する腸内細菌によって分解され、分解生成物が大腸を刺激して瀉下作用をもたらすと考えられている。
- 5 腸粘膜のタンパク質と結合して不溶性の膜を形成し、腸粘膜をひきしめる。

73. ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 食あたりによる下痢の症状に用いられる。
- b 一般用医薬品では、15歳未満の小児には適用がない。
- c 胃腸鎮痛鎮痙薬と併用すると効果的である。
- d 2～3日間使用しても症状の改善がみられない場合には、医師の診療を受けるなどの対応が必要である。

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

74. 次の記述は、胃腸鎮痛鎮痙薬に関するものである。(       ) にあてはまる字句として、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。なお、同じ記号の(       )には同じ字句が入る。

急な胃腸の痛みは、主として胃腸の過剰な動き（痙攣）によって生じる。消化管の運動は（ a ）系の刺激によって亢進し、また、（ a ）系は胃液分泌の亢進にも働く。そのため、（ a ）の伝達物質である（ b ）と受容体の反応を妨げることで、その働きを抑える成分が、胃痛、腹痛、さしこみ（疝痛、癩）を鎮めること（鎮痛鎮痙）のほか、（ c ）や胸やけに対する効果も期待して用いられる。

|   | a     | b       | c    |
|---|-------|---------|------|
| 1 | 交感神経  | アセチルコリン | 便秘   |
| 2 | 交感神経  | アドレナリン  | 胃酸過多 |
| 3 | 副交感神経 | アドレナリン  | 便秘   |
| 4 | 副交感神経 | アセチルコリン | 胃酸過多 |
| 5 | 副交感神経 | アセチルコリン | 便秘   |



77. 貧血用薬（鉄製剤）に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 鉄製剤を服用することにより、便が黒くなることがある。
- b 鉄分の吸収は、空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減するには、食後に服用することが望ましい。
- c 鉄製剤の服用の前後30分にタンニン酸を含む飲食物（緑茶、紅茶、コーヒー、ワイン、柿等）を摂取すると、タンニン酸と反応して鉄の吸収が良くなるので、鉄製剤の服用前後にこれらの飲食物を積極的に摂取することが望ましい。
- d 鉄欠乏性貧血を予防するため、貧血の症状がみられる以前から継続的に鉄製剤を使用することが適当である。

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

78. 循環器用薬の配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a コウカには、末梢の血行を促して鬱血を除く作用があるとされる。
- b ルチンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- c ヘプロニカートは、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分で、摂取された栄養素からエネルギーが産生される際にビタミンB群とともに働く。
- d ユビデカレノンには、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

79. 外用痔疾用薬の配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a リドカインが配合された坐剤及び注入軟膏では、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがある。
- b 局所への穏やかな刺激によって痒みを抑える効果を期待して、熱感刺激を生じさせるメントールが配合されている場合がある。
- c 粘膜表面に不溶性の膜を形成することによる、粘膜の保護・止血を目的として、硫酸アルミニウムカリウムが配合されている場合がある。
- d 痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して、クロタミトンが用いられる。

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

80. 次の泌尿器用薬の配合成分（生薬成分）のうち、利尿作用のほかに、経口的に摂取した後、尿中に排出される分解代謝物が抗菌作用を示し、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられるものとして、**正しいもの**を1つ選びなさい。

- 1 ソウハクヒ
- 2 サンキライ
- 3 キササゲ
- 4 ウワウルシ
- 5 ブクリョウ

81. 婦人薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a トウキは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壯、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。
- b エチニルエストラジオールは、膣粘膜又は外陰部に適用されるものがあり、適用部位で局所的に薬効を示す。
- c 五積散は、女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる漢方処方剤であり、構成生薬にマオウを含む。
- d 桂枝茯苓丸は、女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる漢方処方剤であり、構成生薬にカンゾウを含む。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

82. 内服アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a ベラドンナ総アルカロイドは、鼻腔内の刺激を伝達する交感神経系の働きを抑えることによって、くしゃみを抑えることを目的としている。
- b ジフェンヒドラミンを含む成分については、吸収されたジフェンヒドラミンの一部が乳汁に移行して乳児に昏睡を生じるおそれがある。
- c 抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンの働きを抑える作用以外に抗コリン作用も示すため、排尿困難や口渇、便秘等の副作用が現れることがある。
- d 葛根湯加川芎辛夷は、鼻の症状を主とする人に適する漢方処方剤である。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

83. 歯痛・歯槽膿漏薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 歯痛薬は、歯の齲蝕（むし歯）が修復されることにより歯痛を応急的に鎮めることを目的とする一般用医薬品である。
- b イソプロピルメチルフェノールは、歯肉溝での細菌の繁殖を抑える殺菌消毒成分である。
- c カミツレは、キク科のカミツレの頭花を基原とする生薬で、抗炎症、抗菌などの作用を期待して用いられる。
- d トコフェロールコハク酸エステルカルシウムは、炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して配合されている。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

84. 鼻炎用点鼻薬に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 鼻づまり、鼻みず（鼻汁過多）、くしゃみ、頭重（頭が重い）の緩和を目的として、鼻腔内に適用される外用液剤であるが、花粉症に適用する医薬品ではない。
- b ヒスタミンの働きを抑えることにより、くしゃみや鼻水等の症状を緩和することを目的として、フェニレフリン塩酸塩が配合されている場合がある。
- c 鼻粘膜の過敏性や痛みや痒みを抑えることを目的として、リドカイン塩酸塩が配合されている場合がある。
- d 局所（鼻腔内）に適用されるものであるが、成分が鼻粘膜を通っている血管から吸収されて循環血液中に入りやすく、全身的な影響を生じることがある。

|         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| 1 (a、b) | 2 (a、c) | 3 (b、d) | 4 (c、d) |
|---------|---------|---------|---------|

85. 次の眼科用薬の配合成分とその配合目的の組み合わせについて、**正しいもの**を1つ選びなさい。

| <配合成分>           | <配合目的>                 |
|------------------|------------------------|
| 1 プラノプロフェン       | — 視力調整等の反応を改善する作用      |
| 2 コンドロイチン硫酸ナトリウム | — 目の調節機能を改善する作用        |
| 3 ネオスチグミンメチル硫酸塩  | — 肥満細胞からのヒスタミン遊離を抑える作用 |
| 4 ホウ酸            | — 炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用  |
| 5 アスパラギン酸カリウム    | — 新陳代謝を促し、目の疲れを改善する作用  |

86. 次の記述に当てはまる漢方処方製剤として、**最も適切なもの**を1つ選びなさい。

体力中等度以下で、疲れやすくて尿量減少又は多尿で、ときに手足のほてり、口渇があるものの排尿困難、残尿感、頻尿、むくみ、痒み、夜尿症、しびれに適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感、腹痛、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

- 1 黄連解毒湯
- 2 柴朴湯
- 3 当帰芍薬散
- 4 六味丸
- 5 桂枝加芍薬湯

87. 殺菌消毒成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a アクリノールは、真菌、結核菌、ウイルスに対する殺菌消毒作用がある。
- b クロルヘキシジン塩酸塩は、結核菌やウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- c ポビドンヨードは、ヨウ素及びヨウ化カリウムをエタノールに溶解させたものである。
- d チモールは、細菌や真菌類のタンパク質を変性させることにより殺菌消毒作用を示す。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)



88. 外皮用薬に用いられるステロイド性抗炎症成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 副腎皮質ホルモンと共通する化学構造を持つ主な成分として、デキサメタゾンやプレドニゾロン酢酸エステルがある。
- b 広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹・皮膚炎に適している。
- c ステロイド性抗炎症成分をコルチゾンに換算して1 g 又は1 mL中に0.025 mgを超えて含有する外皮用薬では、特に長期連用を避ける必要がある。
- d 末梢組織の免疫機能を向上させる作用を示す。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

89. 外皮用薬に用いられる非ステロイド性抗炎症成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a ケトプロフェンは、主に皮膚の炎症によるほてりや痒み等の緩和を目的として用いられる。
- b ジクロフェナクナトリウムは、主に筋肉痛、関節痛、打撲、捻挫等に伴う痛みを鎮める目的として用いられる。
- c インドメタシンは、皮膚の下層にある骨格筋や関節部まで浸透してプロスタグランジンの産生を抑える。
- d フェルビナクは、殺菌作用を有するため、皮膚感染症に対しても効果がある。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

90. 次の抗菌作用又は抗真菌作用を有する成分とその配合目的の組み合わせについて、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- | ＜配合成分＞        | ＜配合目的＞  |
|---------------|---|
| a オキシコナゾール硝酸塩 | — 皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。 |
| b ブテナフィン塩酸塩   | — 菌の呼吸や代謝を妨げることにより、皮膚糸状菌の増殖を抑える。                        |
| c シクロピロクスオラミン | — 皮膚糸状菌の細胞膜に作用して、その増殖・生存に必要な物質の輸送機能を妨げることにより、その増殖を抑える。  |
| d ウンデシレン酸亜鉛   | — 患部をアルカリ性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。                          |

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

91. 毛髪用薬の配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a カシュウは、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して配合されている。
- b エストラジオール安息香酸エステルは、女性ホルモンによる脱毛抑制効果を期待して配合されている。
- c カルプロニウム塩化物は、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して配合されている。
- d ヒノキチオールは、抗菌、血行促進、抗炎症作用を期待して配合されている。

1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

92. ニコチン及び禁煙補助剤に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a タバコの煙に含まれるニコチンは、肺胞の毛細血管から血液中に取り込まれると、すみやかに脳内に到達し、脳の情動を司る部位に働いて覚醒、リラックス効果などをもたらす。
- b 市販されている禁煙補助剤は、咀嚼剤のみである。
- c 口腔内がアルカリ性になるとニコチンの吸収が低下する。
- d うつ病と診断されたことのある人では、禁煙補助剤の使用を避ける必要がある。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

93. ビタミン成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a シアノコバラミンは、赤血球の形成を助ける。
- b ピリドキシン塩酸塩は、過剰摂取した場合、高カルシウム血症、異常石灰化の症状が現れることがある。
- c リボフラビン酪酸エステルは、タンパク質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の健康維持、神経機能の維持に重要な成分である。
- d アスコルビン酸ナトリウムは、歯ぐきからの出血、鼻出血の予防に用いられる。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

94. 滋養強壯保健薬の配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a ニンジン、神経系の興奮や副腎皮質の機能亢進等の作用により、外界からのストレス刺激に対する抵抗力や新陳代謝を高めるとされる。
- b システインは、米油及び米胚芽油から見出された抗酸化作用を示す成分で、ビタミンE等と組み合わせて配合されている場合がある。
- c ガンマ-オリザノールは、肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがあり、全身倦怠感や疲労時の栄養補給を目的として配合されている場合がある。

|   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 |

95. 漢方の特徴・漢方薬使用における基本的な考え方に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 現代中国で利用されている中医学に基づく薬剤は、漢方薬とは明らかに別物である。
- b 患者の「証」（体質及び症状）に合った漢方処方が選択されれば効果が期待できるが、合わないものが選択された場合には、効果が得られないばかりでなく、副作用を招きやすくなる。
- c 漢方薬はすべからず作用が穏やかで、副作用が少なく、重篤な副作用は起きない。
- d 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であれば、生後3ヶ月未満の乳児にも使用することができる。

- 1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

96. 消毒薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 次亜塩素酸ナトリウムは、酸性の洗剤・洗浄剤と反応して有毒な塩素ガスが発生するため、混ざらないように注意する必要がある。
- b クレゾール石鹼液は、ほとんどのウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。
- c エタノールは、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対する殺菌消毒作用を示す。

|   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 |

97. 衛生害虫の防除に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 医薬品によるシラミの防除の方法には、殺虫成分としてフェノトリンが配合されたシャンプーやてんか粉が用いられる。
- b ゴキブリの卵は、医薬品の成分が浸透しやすいため、燻蒸処理を行う場合、一度で十分な殺虫効果を示す。
- c ハエの防除の基本は、幼虫（ウジ）の防除であるが、厨芥（生ごみ）がビニール袋に入っているなどして薬液が浸透しない場合は、主に成虫の防除を行うことになる。
- d 室内の換気を改善するとともに、湿度を上げることは、ダニの大量発生防止につながる。

- 1 (a、b)            2 (a、c)            3 (b、d)            4 (c、d)

98. 次の殺虫剤の配合成分とその分類の組み合わせについて、**正しいもの**を1つ選びなさい。

| <配合成分>      | <分類>        |
|-------------|-------------|
| 1 ペルメトリン    | — カーバメイト系   |
| 2 フェンチオン    | — 有機塩素系     |
| 3 メトキサジアゾン  | — オキサジアゾール系 |
| 4 ピリプロキシフェン | — 有機リン系     |
| 5 プロポクスル    | — ピレスロイド系   |

99. 尿糖・尿タンパク検査に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 尿タンパク検査の場合、食後1～2時間を目安に採尿を行う。
- b 通常、尿は弱酸性であるが、食事その他の影響で中性～弱アルカリ性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- c 正確な尿糖の検査のためには、中間尿ではなく出始めの尿を採取することが望ましい。
- d 尿糖検査で異常がある場合、その要因は、一般に高血糖と結びつけて捉えられることが多いが、腎性糖尿等のように高血糖を伴わない場合もある。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

100. 妊娠検査薬に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 尿中の卵胞刺激ホルモン (FSH) の有無を調べるものである。
- b 妊娠の早期判定の補助として使用するものであり、その結果をもって直ちに妊娠しているか否かを断定することはできない。
- c 高温になると検出感度が低下するため、使用直前まで冷蔵庫内に保管する必要がある。
- d 月経予定日が過ぎて概ね1週目以降の検査が推奨されている。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

## V 医薬品の適正使用と安全対策

101. 一般用医薬品の添付文書における記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 妊娠検査薬では、専門家による購入者等への情報提供の参考として、検出感度も併せて記載されている。
- b 使用上の注意として、容認される軽微な症状については、記載されることはない。
- c 使用上の注意は、「してはいけないこと」、「相談すること」及び「その他の注意」から構成され、枠囲い、文字の色やポイントを替えるなど他の記載事項と比べて目立つように記載されている。
- d 「消費者相談窓口」には、「薬剤師又は登録販売者がいる薬局、店舗に問い合わせること」と記載されている。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 | 正 |

102. 医薬品の使用上の注意における高齢者のおよその年齢の目安として、**正しいもの**を1つ選びなさい。

- 1 60歳以上
- 2 65歳以上
- 3 70歳以上
- 4 75歳以上
- 5 80歳以上

103. 一般用医薬品の添付文書における使用上の注意に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 摂取した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られているが、「してはいけないこと」の項で「授乳中の人には本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」として記載するほどではない場合、「相談すること」の項に「授乳中の人」と記載されている。
- b 小児が使用した場合に特異的な有害作用のおそれがある成分を含有する医薬品では、通常、「次の人には使用（服用）しないこと」の項に「15歳未満の小児」、「6歳未満の小児」等と記載されている。
- c 使用上の注意には、「服用前後は飲酒しないこと」など、小児では通常当てはまらない内容もあるが、小児に使用される医薬品においても、その医薬品の配合成分に基づく一般的な注意事項として記載されているものがある。

|   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 正 | 正 | 正 |



104. 一般用医薬品の添付文書における使用上の注意に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 漢方処方製剤では、ある程度の期間継続して使用されることにより効果が得られるとされているものが多いが、長期連用する場合には、専門家に相談する旨が記載されている。
- b 他の医薬品でアレルギーの既往歴がある人でも、使用しようとする医薬品でアレルギー症状を起こしたことがなければ、アレルギー性の副作用を生じるリスクは低いため、「相談すること」には当たらない。
- c 「相談すること」の項に記載されているものは、医薬品を使用する前に、その適否について専門家に相談した上で適切な判断がなされるべき事項である。
- d 「本剤を使用（服用）している間は、次の医薬品を使用（服用）しないこと」と記載されている場合は、医療機関から処方された医療用医薬品の使用を自己判断で控えることが適当である。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 | 正 |

105. 一般用医薬品の添付文書の「相談すること」に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 「医師（又は歯科医師）の治療を受けている人」は、要指導医薬品を使用する場合に医師（又は歯科医師）に相談することが必要であるが、一般用医薬品であれば、自己判断で使用し、相談しなくても差し支えない。
- b 「妊娠又は妊娠していると思われる人」は、胎児への影響や妊娠という特別な身体状態を考慮して、一般的に、医薬品の使用には慎重を期す必要がある。
- c 副作用については、まずまれに発生する重篤な副作用について副作用名ごとに症状が記載され、そのあとに続けて、一般的な副作用について発現部位別に症状が記載されている。
- d 一般用検査薬では、検査結果が陰性であっても何らかの症状がある場合は、再検査するか又は医師に相談する旨等が記載されている。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 | 正 |

106. 医薬品の保管及び取扱いに関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 錠剤、カプセル剤、散剤等の医薬品を、直射日光の当たらない涼しい場所に保管することが望ましいので、冷蔵庫内に保管している。
- b シロップ剤は、変質しにくいいため、開封後も常時室温で保管している。
- c 小児の手が届かない、目につきにくい場所に医薬品を保管している。

|   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 正 | 正 | 正 |

107. 医薬品医療機器等法第68条の10第2項の規定に基づく医薬品の副作用等の報告に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するためとの趣旨に鑑みて、医薬品によるものと疑われる、身体の変調・不調、日常生活に支障を来す程度の健康被害（死亡を含む。）について報告が求められている。
- b 安全対策上必要があると認めるときは、医薬品の過量使用や誤用等によるものと思われる健康被害についても報告がなされる必要がある。
- c 医薬品との因果関係が明確でない場合は、報告の対象とならない。
- d 保健衛生上の危害の発生又は拡大防止の観点から、医薬品の販売等に従事する専門家は、報告の必要性を認めた日から起算して、15日以内に報告書を厚生労働省あてに送付しなければならない。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

108. 医薬品の副作用情報等の収集、評価及び措置に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 製造販売業者等は、製造販売をし、又は承認を受けた医薬品の副作用等によるものと疑われる死亡症例の発生を知ったときは、その旨を30日以内に厚生労働大臣に報告を行わなければならない。
- b 各制度により集められた副作用情報は、厚生労働省において専門委員の意見を聴きながら調査検討が行われ、その結果に基づき、厚生労働大臣は、薬事・食品衛生審議会の意見を聴いて、安全対策上必要な行政措置を講じている。
- c 2006年6月の薬事法改正により、登録販売者も副作用等の報告を行う医薬関係者として位置づけられた。

|   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 正 | 正 | 正 |

109. 医薬品副作用被害救済制度に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 医療費の給付は、副作用の原因となった医薬品の製造販売業者が直接行う。
- b 医療費や医療手当などの各種給付の請求は、請求する者の住所地の市町村長に対して行う。
- c 救済給付業務に必要なすべての費用は、医薬品の製造販売業者から年度ごとに納付される拠出金で賄われる。
- d 医学的薬学的判断を要する事項については、厚生科学審議会の諮問・答申を経て、厚生労働大臣が判定した結果に基づいて、医療費、障害年金、遺族年金等の各種給付が行われる。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 | 正 |

110. 緊急安全性情報に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a A4サイズの黄色地の印刷物で、イエローレターとも呼ばれる。
- b 医薬品、医療機器又は再生医療等製品について緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合に、厚生労働省からの命令、指示、製造販売業者の自主決定等に基づいて作成される。
- c 厚生労働省から医療機関や薬局等へ直接配布される。
- d 医療用医薬品や医家向け医療機器についての情報伝達に限られ、一般用医薬品についての情報伝達には用いない。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |

111. 一般用医薬品の安全対策に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 2003年5月までに、一般用かぜ薬の使用によると疑われる重篤な副作用（間質性肺炎）の発生事例が、計26例報告されたため、厚生労働省から関係製薬企業に対し、使用上の注意の改訂が指示された。
- b 塩酸フェニルプロパノールアミン（PPA）含有医薬品について、2000年5月米国で、女性が食欲抑制剤（我が国での鼻炎用内服薬等における配合量よりも高用量）として使用した場合に、出血性脳卒中の発生リスクとの関連性が高いとの報告がなされ、米国食品医薬品庁（FDA）から、米国内における自主的な販売中止が要請された。
- c アミノピリン、スルピリンが配合されたアンプル入りかぜ薬の使用による重篤な副作用で複数の死亡例が発生し、1965年、厚生省（当時）より関係製薬企業に対し、アンプル入りかぜ薬製品の回収が要請された。
- d 小柴胡湯とインターフェロン製剤の併用例による間質性肺炎が報告されたことから、1994年1月、小柴胡湯とインターフェロン製剤の併用を禁忌とする旨の使用上の注意の改訂がなされた。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 | 正 |

112. 医薬品の適正使用及びそのための啓発活動に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」を広く普及し、薬物乱用防止を一層推進するため、毎年6月20日～7月19日までの1ヶ月間、国、自治体、関係団体等により、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。
- b 医薬品の持つ特質及びその使用・取扱い等について正しい知識を広く生活者に浸透させることにより、保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年10月17日～23日の1週間を「薬と健康の週間」として、国、自治体、関係団体等による広報活動やイベント等が実施されている。
- c 薬物乱用や薬物依存は、違法薬物（麻薬、覚せい剤、大麻等）によるものであり、一般用医薬品では生じない。
- d 医薬品の適正使用の重要性等に関して、小中学生のうちからの啓発が重要である。

|   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |

113. 次の医薬品成分等のうち、一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項目中に、「次の診断を受けた人」として「心臓病」と記載される成分等について、**正しいもの**を1つ選びなさい。

- 1 フェルビナク
- 2 芍薬甘草湯
- 3 リドカイン
- 4 アミノ安息香酸エチル
- 5 テオフィリン

114. 一般用医薬品の添付文書の「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「妊婦又は妊娠していると思われる人」と記載される主な成分・薬効群とその理由の組み合わせについて、**正しいもの**を1つ選びなさい。

- | <主な成分・薬効群>                       | <理由>                        |
|----------------------------------|-----------------------------|
| 1 ジフェンヒドラミン塩酸塩を主薬とする催眠鎮静薬（睡眠改善薬） | — 妊娠に伴う不眠は、睡眠改善薬の適用症状ではないため |
| 2 ケトプロフェンが配合された外用鎮痛消炎薬           | — 接触皮膚炎、光線過敏症は妊娠中のみ誘発されるため  |
| 3 トラネキサム酸が配合された口腔咽喉薬             | — 分娩時出血の増加のおそれがあるため         |
| 4 ヒマシ油が配合された瀉下薬                  | — 胎児の動脈管の収縮のおそれがあるため        |

115. 一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項目中に、「授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」と記載される主な成分・薬効群とその理由の組み合わせについて、**正しいもの**を1つ選びなさい。

- | <主な成分・薬効群>           | <理由>                 |
|----------------------|----------------------|
| 1 イブプロフェンが配合された解熱鎮痛薬 | — 乳児に頻脈を起こすことがあるため   |
| 2 ロートエキスが配合された内服薬    | — 乳児に貧血を起こすことがあるため   |
| 3 センノシドが配合された内服薬     | — 乳児に昏睡を起こすことがあるため   |
| 4 テオフィリンが配合された鎮咳去痰薬  | — 乳児に神経過敏を起こすことがあるため |

116. 一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項目中に、「次の診断を受けた人」として「肝臓病」と記載される主な成分・薬効群とその理由の組み合わせについて、**正しいもの**を1つ選びなさい。

| <主な成分・薬効群> |                 | <理由> |  |
|------------|-----------------|------|--|
| 1          | ピペラジンリン酸塩       | —    | 肝臓における代謝が円滑に行われず、体内への蓄積によって副作用が現れやすくなるため     |
| 2          | アスピリン           | —    | 間質性肺炎の副作用が現れやすいため                            |
| 3          | 小柴胡湯            | —    | 胃・十二指腸潰瘍を悪化させるおそれがあるため                       |
| 4          | ガジュツ末・真昆布末を含む製剤 | —    | ナトリウム貯留、カリウム排泄促進が起こり、むくみ（浮腫）等の症状が現れるおそれがあるため |

117. 一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項目中に、「次の診断を受けた人」として記載される基礎疾患等と主な成分の組み合わせについて、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

| <基礎疾患等> |          | <主な成分> |                |
|---------|----------|--------|----------------|
| a       | 胃・十二指腸潰瘍 | —      | コデインリン酸塩水和物    |
| b       | 高血圧      | —      | パパベリン塩酸塩       |
| c       | 腎臓病      | —      | 水酸化マグネシウム      |
| d       | 甲状腺機能亢進症 | —      | トリメトキノール塩酸塩水和物 |

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

118. 一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項目中に、「次の症状がある人」として記載される症状と主な成分の組み合わせについて、**正しいもの**を1つ選びなさい。

| <症状> |        | <主な成分> |              |
|------|--------|--------|--------------|
| 1    | けいれん   | —      | ロペラミド塩酸塩     |
| 2    | 出血傾向   | —      | ブロメライン       |
| 3    | 排尿困難   | —      | ピペラジンリン酸塩水和物 |
| 4    | はげしい腹痛 | —      | イソプロパミドヨウ化物  |



119. 次の一般用医薬品のうち、医薬品副作用被害救済制度の対象となるものとして、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 点鼻薬
- b 一般用検査薬
- c 殺菌消毒剤（人体に直接使用するもの）
- d 日本薬局方ワセリン

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

120. 医薬品PLセンターに関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 独立行政法人医薬品医療機器総合機構により、平成7年7月の製造物責任法の施行と同時に開設された。
- b 医薬品副作用被害救済制度の対象とならないケースのうち、製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合には、医薬品PLセンターへの相談が推奨される。
- c 消費者が、医薬品又は医療機器に関する苦情について製造販売元の企業と交渉するに当たっての相談を受け付けている。

|   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 |

|  |       |          |
|--|-------|----------|
| 氏名   | 奈良 太郎 | 受験番号     |
|  |       | J1819012 |
| <p>平成30年度奈良県登録販売者試験(午前)</p> <p>*解答欄に鉛筆やボールペンで番号をはっきりとわかるように記入してください。</p> |       |          |

|                        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| I<br>医薬品に共通する特性と基本的な知識 | 問  | 解答 | 問  | 解答 | 問  | 解答 | 問  | 解答 | 問  | 解答 |
|                        | 1  | 4  | 2  | 1  | 3  | 3  | 4  | 2  | 5  | 1  |
|                        | 6  | 1  | 7  | 4  | 8  | 4  | 9  | 4  | 10 | 3  |
|                        | 11 | 1  | 12 | 2  | 13 | 2  | 14 | 2  | 15 | 3  |
|                        | 16 | 4  | 17 | 4  | 18 | 2  | 19 | 4  | 20 | 3  |

|                 |    |   |    |   |    |   |    |   |    |   |
|-----------------|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|
| II<br>人体の働きと医薬品 | 21 | 4 | 22 | 2 | 23 | 2 | 24 | 4 | 25 | 1 |
|                 | 26 | 4 | 27 | 1 | 28 | 4 | 29 | 4 | 30 | 3 |
|                 | 31 | 5 | 32 | 1 | 33 | 2 | 34 | 5 | 35 | 5 |
|                 | 36 | 4 | 37 | 3 | 38 | 2 | 39 | 4 | 40 | 5 |

|                    |    |   |    |   |    |   |    |   |    |   |
|--------------------|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|
| III<br>薬事に関する法規と制度 | 41 | 4 | 42 | 5 | 43 | 4 | 44 | 4 | 45 | 4 |
|                    | 46 | 1 | 47 | 2 | 48 | 5 | 49 | 1 | 50 | 4 |
|                    | 51 | 2 | 52 | 2 | 53 | 3 | 54 | 2 | 55 | 3 |
|                    | 56 | 5 | 57 | 1 | 58 | 1 | 59 | 1 | 60 | 5 |

|  |       |          |
|--|-------|----------|
| 氏名   | 奈良 太郎 | 受験番号     |
|  |       | J1819012 |
| <p>平成30年度奈良県登録販売者試験(午後)</p> <p>*解答欄に鉛筆やボールペンで番号をはっきりとわかるように記入してください。</p> |       |          |

|                  |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |
|------------------|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|
| IV<br>主な医薬品とその作用 | 問  | 解答 | 問  | 解答 | 問  | 解答 | 問  | 解答  | 問  | 解答 |
|                  | 61 | 1  | 62 | 4  | 63 | 3  | 64 | 2   | 65 | 3  |
|                  | 66 | 3  | 67 | 2  | 68 | 4  | 69 | 1   | 70 | 4  |
|                  | 71 | 1  | 72 | 4  | 73 | 3  | 74 | 4   | 75 | 5  |
|                  | 76 | 1  | 77 | 1  | 78 | 2  | 79 | 2   | 80 | 4  |
|                  | 81 | 3  | 82 | 4  | 83 | 1  | 84 | 4   | 85 | 5  |
|                  | 86 | 4  | 87 | 3  | 88 | 3  | 89 | 1   | 90 | 2  |
|                  | 91 | 3  | 92 | 5  | 93 | 5  | 94 | 2   | 95 | 1  |
| 96               | 1  | 97 | 2  | 98 | 3  | 99 | 3  | 100 | 3  |    |

|                    |     |   |     |   |     |   |     |   |     |   |
|--------------------|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|
| V<br>医薬品の適正使用と安全対策 | 101 | 1 | 102 | 2 | 103 | 5 | 104 | 1 | 105 | 3 |
|                    | 106 | 3 | 107 | 1 | 108 | 3 | 109 | 2 | 110 | 4 |
|                    | 111 | 3 | 112 | 3 | 113 | 2 | 114 | 1 | 115 | 4 |
|                    | 116 | 1 | 117 | 4 | 118 | 2 | 119 | 2 | 120 | 1 |